

だいじょうぶつきょう

大乘仏教とわが学園

今から 2,400 年前のこと。その前後 150 年の間に何人もの智慧ある人々があらわれています。

ギリシャではソクラテスが地上から天体にいたる全てのものの原理は何かと深く考える「哲学者」となりました。

その数年後におなじギリシャにアリストテレスがあらわれて、物質の作りかたの法則を考え「科学」を生みだしました。

その頃、インドにゴータマ・シッダールタ（釈迦—しゃか）が現れました。

彼は、人々を苦しめる生・老・病・死を解釈する智慧を追い求めて日夜瞑想し「仏教」を悟りました。

世界にはユダヤ教・キリスト教・イスラム教などの宗教がありますが、これらの信仰対象は「神」という絶対の存在です。

この唯一で絶対の神を奉じる宗教は、その教えに疑問をはさむことは許されません。ですからキリスト教の聖書は「永遠の真実の書」なのです。

しかし、ゴータマ・シッダールタ（釈迦）は、人々の疑問に具体的な事例を以って答え、その考え方まで懇切に教えました。

釈迦は 36 才にとき、ナイランジャ河のガヤという村の菩提樹の下に坐して「さとり」をひらきました。

さとりとは、自然も人も、いっさいのものは「縁」によって生じ「縁」によって存在するという「縁起の理法」を見出したことです。

これが釈迦仏教の基本の考え方です。

釈迦は、この世の全ての存在の因果関係を明らかにし、人間に対する愛と優しさをもって、自分が達成した、やすらぎの心境—さとりへの道を説いたのです。

釈迦は 80 才で亡くなりました。釈迦亡きあと紀元前三世紀ころには、仏教はインド全域にひろまりましたが、やがて保守的な「上座部—小乗仏教」と、その閉鎖性をきらった「大衆部—大乘仏教」にわかれしました。

この大衆部は、自分だけの完成よりも、多くの他者と共に救われようとのサットバイズム（人々とともに—）を主眼として「大きな乗りもの」にたとえられ大乘仏教といわれました。

わが学園の共生の理念も「願わくは衆生（人々）と共に—」の大乘仏教の菩薩行の教育上での実践です。

全ての生命あるもの、仏性あるものとの共生に、人間価値をおき感恩奉仕の願いを学校教育の上に生かすことを念じているのです。